

A Iの目が高齢者を見守る「ヤモリン転倒検知システム」の販売開始 AI×IOT でコロナ禍の介護崩壊を防ぐ、サブスクで月2500円から簡単導入

AI（人工知能）、IoT(モノのインターネット)技術開発の mtes Neural Networks 株式会社（代表取締役社長兼 CEO：原田 隆朗、本社：東京都品川区／以下、mtesNN）は、AI カメラを使い人の転倒を検知できる「ヤモリン転倒検知システム」を開発しました。本システムは、画像分析機能を備えた AI カメラが半径10メートル、約120度の範囲で人の転倒を検知し、LINE や slack に通知する仕組みになっています。本システムを使えば、医療や介護施設などで起きる高齢者の転倒事故を直ちに検知することが可能となり、慢性化する人手不足やコロナ禍による対人接触の制限などで不安視される現場崩壊を防ぐことにつながります。6月に販売を始め、価格は AI カメラ 1 台あたり月額 2500 円を予定しています。初年度に3万台の導入を目指しています。

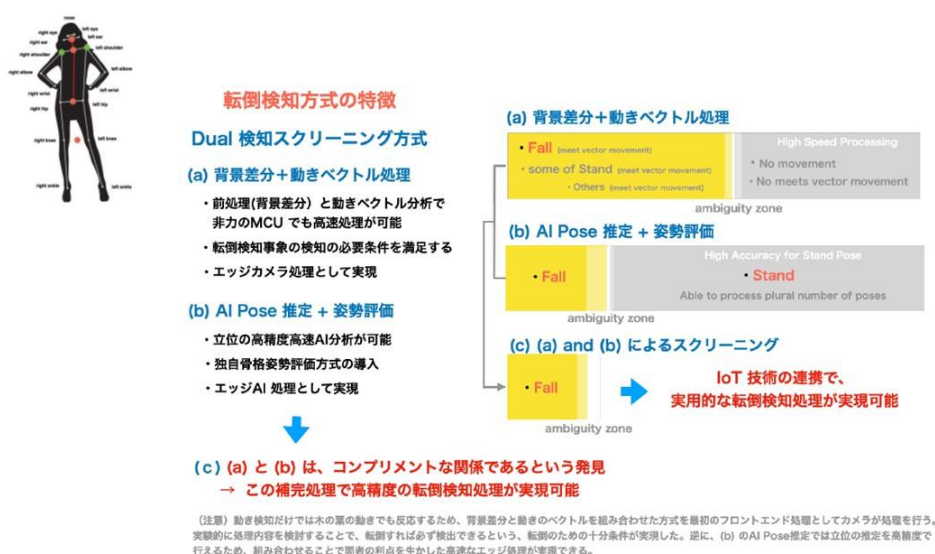
多くの高齢者が入居する介護や福祉施設では、少子高齢化のなかで介護士などの人手不足が深刻化するなかで入居する高齢者の方々の転倒事故などへの対応力が低下してします。また医療や介護施設においては、コロナウイルスの集団感染が発生し人との接触を制限するなかで日常業務を遂行しなくてはいけなくなっています。今回、mtesNN では株式会社関東サンガ（代表取締役社長：浅香 誠一郎、本社：埼玉県さいたま市）の有料老人ホーム「あきる野翔裕館」（東京都あきる野市）に AI カメラ 4 台を導入し、5 日から実証試験を始めました。

■ システムの概要と特徴



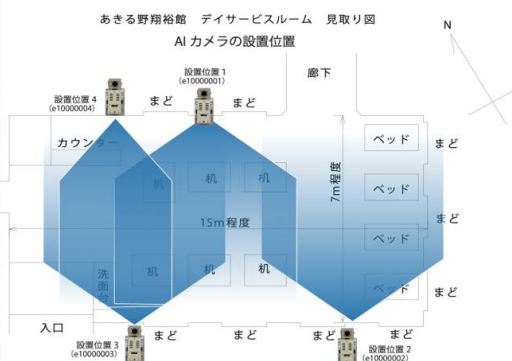
1. AI カメラ（ネット接続）を設置するだけで検知システムが導入可能
2. ポーズドクターが転倒を検知し、LINE/ Slack などにプッシュ通知でアラートを配信
3. 動画（Flip Video）・静止画の自動記録と閲覧が迅速に行えるWeb サービスを提供
4. 緊急ランプ、緊急ボタン、各種センサー（温度・湿度、ドア開閉など）、サーモグラフィカメラなどの追加導入が可能
5. エッジ AI が画像の記録、転倒検知のための画像処理を実施。クラウドサーバーは基本的に使用しないため運用コストを大幅に削減できる

■ 転倒検知（Dual 検知とポーズドクター）について



AI カメラが差分分析と重心ベクトルで人の動き（動画）をスクリーニングします。その後、エッジ AI が組み込まれたポーズドクターが骨格の動きで転倒などの姿勢を評価します。撮影された動画は常に 20 秒間に録画されます。ポーズドクターでスクリーニングした映像だけを端末に送信し、LINE や Slack に通知されます。

■ あきるの翔裕館様での実証試験の様子



今回の実証試験について、あきる野翔羽浴館の浅香誠一郎氏は「当施設では担当者がインカムを利用してサービスを提供しています。今回のヤモリン転倒検知システムの通知を端末で受けた際には、インカムで連絡して近くにいる担当者が様子を見に行ったりする使い方ができます。またこのシステムをケアマネジャーと共有すれば、施設内の様子を遠隔で確認してもらうこともできます。施設内ではベッドに寝ている方が離床し歩行の際、転倒のリスクが高く、共有スペースだけでなく個室にも使い方を広げていきたいと思っております」と述べました。

■ mtes Neural Networks株式会社

- ・IoTプラットフォーム事業
- ・AI/IoTシステム事業
- ・デバイス/モジュール事業
- ・ストック型サービス事業

HP : <https://www.mtesnn.jp/>

■ お客様、報道機関様からのお問い合わせ先

mtes Neural Networks株式会社

お問い合わせ窓口 : TEL 03-6417-0717 (管理本部・原田まで)

お問い合わせWebフォーム : <http://prweb.jp/mtes/contact>